

道徳の授業記録分析基準

2012.3 Tanabe Okawa

	類 型	説 明	発 言 例
I	主人公の気持ち①	主人公の気持ちを、資料の記述に基づき短いことばで表現した発言	迷っていた。うれしかった。
II	主人公の気持ち②	主人公の気持ちを、学習者自身が想像し、自分のことばで表現した発言	どうしようかな。男の子と約束したし、でも大劇場には出たいなあと思ったと思います。
III	状況に基づく理由づけ	資料における主人公の行為や描かれた状況をもとにした理由づけを加えた上で、主人公の気持ちを表現した発言	手品師は、男の子と「きっと来るよ」約束したし、もし自分が行かなかつたら男の子が悲しむから、大劇場には出たいけど、やっぱり男の子の方に行こうと思っていると思います。
IV	考えに基づく理由づけ	ねらいとする価値に関する学習者の考え方や判断に基づいた理由づけを加えた上で、主人公の気持ちを表現した発言	やっぱりどんな小さな約束でも守るべきだと思います。この手品師も男の子との約束を守ろうと思っています。
V	体験に基づく理由づけ	学習者自身の体験に基づいた理由づけを加えた上で、主人公の気持ちを表現した発言	ぼくも先に友だちと遊ぶ約束をしていて、後から家族と遊園地へ行くことになったことがあって、その時とても迷ったから、きっとこの手品師もどうしたらいいか迷っていると思います。
VI	主人公との同一化	学習者が資料中の主人公の世界に自分を置き、その立場に立って考えた内容を含む発言	手品師はとても迷ったと思います。もし自分がこの手品師だったら、やっぱり迷うと思うし、すぐには決められないと思います。
VII	主人公に対する考え方	主人公の行為や考え方、感じ方に対する学習者の考え方、感じ方を述べた発言	この手品師は心の中で迷っていたと思うけど、迷う必要はないと思います。男の子を大事に思う気持ちは分かるけど、大劇場を夢見ていたんだから、自分の目標に向かって進んだらいいと思います。
VIII	自分の将来の生き方	学習者自身の将来の生き方についての思いや、課題を付け加えた発言	手品師は男の子の所に行こうと決めていたと思います。もし自分にこんなことがあったら、手品師のように約束を守ることを一番に考えたいです。

※発言例の欄には、5年生資料『手品師』の基本発問「友人からさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えたでしょう。」に対する反応として想定される児童の発言例を示した。